



ロシア年次教書演説における「問題」の表象 : 3 単語のコロケーション分析

杉山, 真央

(Citation)

コーパスと文体論のインタフェース2018発表論文集:15-27

(Issue Date)

2019-03-01

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90005629>



ロシア年次教書演説における「問題」の表象

—3 単語のコロケーション分析—

杉山 真央(大阪大学大学 大学院生)

sugiyama.mao0420@gmail.com

Lexical Representation of Problems in Russian Presidential Addresses to the Federal Assembly: A collocational Analysis of Three Types of Words Denoting Problems SUGIYAMA Mao (Osaka University, Graduate Student)

概要

本研究では、ロシア大統領、エリツィン、プーチン、メドベージェフによるロシア年次教書演説を扱い、問題に関する語彙, *вопрос* (question/ matter), *проблема* (problem), *задача* (issue/ task)に着目し、語彙表現から聞き手に与え得るリーダー性について考察した。MI スコアを指標としてこれらの語の重要コロケーションを観察した。その結果、エリツィンは問題の困難性、プーチンは問題の重要性、メドベージェフは具体的な問題に言及する、という問題意識の表現における差異が明らかとなった。

キーワード

ロシア大統領, 年次教書演説, コロケーション

1. はじめに

ロシア大統領年次教書演説は、1994 年、エリツィン政権より始まった。ロシア憲法第 84 条の規定において国家情勢、国内外政策の方針に関する年次教書を提出することが定められている。ロシア国内でもロシア大統領年次教書演説への関心は高く、演説原稿はロシア大統領公式サイト、また様々なインターネットニュースサイトなどにも全文が掲載されている。日本では、丸紅経済研究所、国際公共政策研究センターなどの研究所による報告書や政治的政策に関する質的な研究によりロシア大統領年次教書演説を手がかりにロシアの動向について分析されている。

国家指導者への世論による評価の多くは、政策、計画、そしてそれらの結果に依るものであるが、本稿で扱うロシア年次教書演説をはじめ、政治的文書は事前にスピーチライター、および演説者により準備される。そのため、何をどのように伝えるかということは当然のことながら考慮されている。特に、年次教書演説は自らの政権における今後 1 年の計画、方針を述べるため様々なメディアが注目するほど重大な行事である。そのような公の場で、ロシア大統領が自身を国家指導者としてア

ピールするためにどのような言葉を使用しているのか。全ロシア世論調査センター(Всероссийский центр изучения общественного мнения: ВЦИОМ)は2008年に「理想の大統領」についてアンケート調査を行った。国民の求める理想的大統領像は、「現代的で効果的な管理能力を持つ」が53%、「賢明な政治家, 「国家の父」である」が39%であった(図1)。

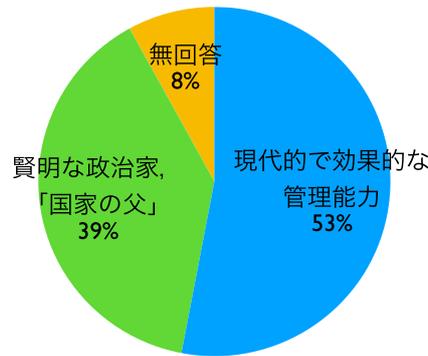


図1 全ロシア世論調査結果をもとに筆者作成

(Если говорить об идеальном президенте, то каким Вы его видите?

「理想的な大統領といえば、あなたはどのような点に注目しますか。」)

社会学者でコミュニケーションを専門とするポチェプツォフ氏(Почепцов, 2002)は、「民衆は、権威ある組織は、問題の困難さについての語りではなく、問題解決を期待しているのだ。権威とは、問題解決のシンボルであり、躊躇や疑問のシンボルではない」と民衆の求める権威について述べている。地方自治体教育管理局長イグナトバ氏(Наталья Игнатова)は“Time and people”(Время и люди)のインタビュー「大統領とはどのようにあるべきか」という質問に対して、「大統領は、今後数年間自国のためにできることを示す、明確なプログラム、諸問題に対応できる能力を持つべきである」と答えた。ロシア大統領に限らず、国家指導者の問題解決能力は、一つの評価基準となる。ロシア国内での指導者の評価は、ある問題に対して解決策を提示し、実行するかという点であることが伺える。このことから、国家指導者である大統領の評価も国内外の問題に対する姿勢が影響すると考え、「問題」という語彙に着目してロシア歴代大統領、ボリス・エリツィン、ウラジーミル・プーチン、ドミトリー・メドベージェフによるロシア年次教書を分析する。

本研究では、ロシア大統領が大統領年次教書演説において、「問題」について言及する際にどのような語彙と結びつく傾向があるのかを観察し、ロシア大統領の指導者としてどのように問題に向き合っているかを明らかにする。

2. 先行研究

ヤーシン(Яшин 2010)は、1996年のエリツィン、2000年のプーチン、そして2008年のメドベージェフによるロシア大統領年次教書演説を扱い、政治的語彙に着目し、「n語の連鎖(n-gram)」での振る舞いを2-gram, 3-gram, 4-gramでの使用を観察し、「問題・課題は発展

(задача – развитие/ issue – development)」を指し、「発展は方向性を指す (развитие – направление/ development – direction)」という結論を導いた(表1)。

ヤーシン(Яшин 2010)はロシア大統領年次教書演説を対象に、これまで行われることのなかったロシア大統領の政治演説での語彙使用に着目し、現代ロシアにおける政治的キーワードの傾向を明らかにした。しかし、ヤーシン(Яшин 2010)では、ロシア大統領3氏による年次教書演説を扱っているものの、1996年、2000年、2008年という対象テキストの限定、各大統領の特徴ではなく、全体に共通する特徴への着目、さらに素頻度による比較が行われているため、ロシア大統領による年次教書演説での傾向、特徴を提示するにはさらなる研究が求められる。

表 1 ロシア大統領年次教書演説における政治的語彙の使用
(Яшин (2010) の結果をもとに筆者作成)

2-gram	3-gram	4-gram
эффективно работать (work effectively)	реализация основных направлений (realization of the fundamental direction)	проблемы решались на основе (problems were solved on a foundation)
решить проблему/ задачу/ вопрос (solve a problem/ issue/ question)	основных направлений развития (fundamental direction of development)	взаимодействие по решению проблем (mutual relationship of a solution of a problem)
уровень развития (development of a level)	эффективная система управления (command of an effective system)	добиться решения основных проблем (achieve a solution of a fundamental problem)
содействовать развитию (cooperate on development)	решить в условиях (solve in a condition)	содействовать нашей эффективной работе (cooperate on our effective work)
направление развития (direction of development)	условий развития (condition for development)	реальное начало реализации проектов (real beginning of the realization of a project)

3. リサーチデザインと手法

3.1 研究目的

年次教書演説では、大統領の政策、計画、方針が述べられており、そこには、演説者の問題に対する意識が語彙にも現れる。そこで、本稿では、ロシア大統領による年次教書演説を扱い、「問題」を示す語彙, вопрос (question/ matter), проблема (problem), задача (issue/ task)の使用を比較し、エリツィン、プーチン、メドベージェフの国家指導者としての問題に対する姿勢、提示の傾向を明らかにする。

3.2 データ

本研究では、1994年より開始された、ロシア大統領年次教書演説を扱う。エリツィンは

1994年から1999年までの6回、プーチンは2000年から2007年、そして2012年から2016年までの13回、メドベージェフは2008年から2011年までの4回分の年次教書演説をテキストファイルとし、テキストに出現する語の表記形を基本形に集約した(レマ化)(表2)。

表2 コーパス情報(ロシア大統領年次教書演説, レマ単位)

	Files	Tokens	Types
エリツイン (1994–1999)	6	97,215	7,553
プーチン (2000–2007, 2012–2016)	13	86,974	6,916
メドベージェフ (2008–2011)	4	216,550	4,197

3.3 手法

ロシア大統領年次教書演説における *вопрос* (question/ matter), *проблема* (problem), *задача* (issue/ task) がどのような語彙と共起関係にあるのかを観察する。一般に、語やフレーズの持つ意味は、それらの近傍に出現する語、つまり、コロケーションと深く関連付けられている(Winnie, 2011: 77)。コロケーションの検出には様々な統計指標が存在するが、本研究では、低頻度語彙であっても結びつきの強いものを積極的に評価する相互情報量スコア(Mutual Information: MI)を使用する(Hunston, 2002: 12, Winnie, 2011: 94–95)。本研究では、対象語彙のスパンは前後5語とする(Philip, 2003: 104)。なお、本研究では分析にあたって、CasualConc(Imao, 2017)を使用した。

4. 結果と考察

4.1 エリツイン演説における「問題」のコロケーション

本稿では、対象語彙との結びつきの強いコロケーションを考察するために Hunston (2002: 71) に従い、MI スコア ≥ 3 を重要なコロケーションとした。また、構築したロシア年次教書コーパスが小規模であるため、共起頻度 ≥ 2 のものに限定する。表3はエリツインのロシア大統領年次教書演説における3種の「問題」語(*вопрос* (question/ matter), *проблема* (problem), *задача* (issue/ task)) と共起するコロケーションと以下の通りである(表3)。次の3つの項目に分けて各大統領の「問題」の使用を比較した。1) 問題の困難さ, 重要性, 2) 解決関係, 3) 問題の発生, 悪化, である。

• エリツイン演説の вопрос (question/ matter)

- (1) 問題の困難さ, 重要性: нерешенность (hesitancy), спорный (controversial), остро (urgently), трудный (difficult)
- (2) 解決関係: компромисс (compromise), рассмотреть (consider)
- (3) 問題の発生, 悪化: встать (stand), вставать (stand(ing)), ставиться (be put), признание (recognition)

(1)の項目の内, 問題の困難さを表す, нерешенность (hesitancy), спорный (controversial)の頻度は2回と少ないが, MI スコアはそれぞれ 6.86 と 5.53 であることから, 同じ頻度で出現する(2)の問題解決を表す語彙で MI スコアが 3.21 の рассмотреть (consider)よりも共起語としての結びつきが強い。

表 3 エリツイン演説における「問題」のコロケーション (上位 20 語)

Yeltsin											
No.	Word	MI-score	Freq.	No.	Word	MI-score	Freq.	No.	Word	MI-score	Freq.
вопрос (question)				проблема (problem)				задача (issue)			
1	нерешенность (hesitancy)	6.86	2	1	нерешенный (unresolved)	5.78	7	1	угол (corner)	5.69	7
2	спорный (controversial)	5.53	2	2	базирование (basing)	5.71	2	2	неудовлетворительно (unsatisfactory)	5.27	2
3	лицензирование (licensing)	5.05	2	3	взаимоотношения (relationship)	5.71	2	3	посильный (affordable)	5.27	2
4	ответ (answer)	4.53	9	4	острота (severity)	5.56	6	4	последовательность (consistency)	4.95	6
5	встать (stand)	4.53	2	5	груз (cargo)	5.30	6	5	приведение (enforcement)	4.95	6
6	вставать (stand)	4.40	2	6	масштабность (magnitude)	5.30	2	6	уточнить (clarify)	4.64	2
7	пограничный (frontier)	4.40	2	7	одночасье (overnight)	5.30	2	7	поставить (put)	4.31	2
8	компромисс (compromise)	4.35	3	8	первостепенный (primordial)	5.30	2	8	ставиться (be put)	4.27	2
9	ставиться (be put)	4.27	2	9	породить (create)	5.18	6	9	состоять (consist)	4.18	6
10	двусторонний (bilateral)	4.05	3	10	интенсивный (intensive)	4.97	2	10	стоить (worth)	3.99	2
11	блок (block)	4.05	2	11	обострить (exacerbate)	4.97	2	11	приоритетный (priority)	3.98	2
12	казахстан (kazakhstan)	4.05	2	12	накопиться (accumulate)	4.92	5	12	важность (importance)	3.95	5
13	признание (recognition)	3.92	3	13	подходить (approach)	4.71	4	13	острота (severity)	3.95	4
14	принципиальный (fundamental)	3.74	6	14	обострение (worsening)	4.71	3	14	1995	3.82	3
15	внесение (making)	3.69	2	15	встать (stand)	4.56	3	15	вставать (stand)	3.81	3
16	общественно-политический (socio-political)	3.69	2	16	острый (acute)	4.47	20	16	выполнить (implement)	3.69	20
17	остро (urgently)	3.69	2	17	выявить (reveal)	4.42	3	17	стоять (stand)	3.69	3
18	правительственный (governmental)	3.69	2	18	задержка (delay)	4.39	4	18	насушный (vital)	3.69	4
19	рассмотреть (consider)	3.21	2	19	возникать (occur)	4.10	7	19	пересмотр (review)	3.69	7
20	трудный (difficult)	3.12	3	20	незамедлительно (immediately)	3.97	2	20	первоочередной (primary)	3.63	2

• エリツイン演説の проблема (problem)

- (1) 問題の困難さ, 重要性: нерешенный (unresolved), острота (severity), груз (load), задержка (delay), острый (acute), незамедлительно (immediately)

(2) 解決関係: 該当語彙なし

(3) 問題の発生, 悪化: обострить (exacerbate), обострение (worsening), встать (stand), выявить (reveal), возникать (occur)

(1)の内, 問題の困難さを示す語彙である, нерешенный (unresolved), острота (severity), груз (load)が上位を占めており(表 3), それぞれの出現頻度, および MI スコアをその他の語彙と比較すると高い。問題について述べる際, ネガティブな語彙との共起関係が MI スコアにより確認されたこと, また出現頻度により聞き手にネガティブな印象を与えていることが分かる。

・エリツイン演説の задача (issue/ task)

(1) 問題の困難さ, 重要性: неудовлетворительно (unsatisfactory), стоить (worth), приоритетный (priority), важность (important), первоочередной (primary)

(2) 解決関係: уточнить (clarify), выполнить (implement), пересмотр (review)

(3) 問題の発生, 悪化: поставить (put), ставиться (be put), вставать (stand(ing)), стоять (stand)

(1)の項目では, 問題の困難さを意味する語彙, неудовлетворительно (unsatisfactory)が表 3で示されているように, 出現頻度が2でありながら, MI スコアが 5.27 と高いため, задача (issue/ task)との結びつきが強いことが分かる。一方で, (1)の項目では, 問題の重要性を示す語彙との共起関係も観察されており, стоить (worth), приоритетный (priority), важность (important), первоочередной (primary)というポジティブな語彙との共起関係も確認された。(2)の項目では, выполнить (implement)が挙げられ, MI スコアは 3.69 であるが, 出現頻度が 20 回ということから, エリツインの演説において, 聞き手には задача (issue/ task)は, 「大統領はその問題解決に対して実行する」という印象を与え得る。

エリツインの年次教書演説における「問題」に関する語彙とのコロケーションをみると, 問題の困難さや発生に関する名詞, 形容詞が多く使用されている。エリツインの「問題」に関する語彙との共起関係をみると, エリツインは聴衆に対して, 自らの政権において解決すべき問題の困難さを示す傾向があったと考えられる。一方で, задача (issue/ task)では, 問題解決に対して積極的な姿勢にあった。

4.2 プーチン演説における「問題」のコロケーション

表4はプーチンの年次教書演説での「問題」に関する語彙のコロケーションである。エリツインと同様に, 1) 問題の困難さ, 重要性, 2) 解決関係, 3) 問題の発生, 悪化, の3つの項目で共起語の種類を分類する。

表 4 プーチン演説における「問題」のコロケーション（上位 20 語）

Putin											
No.	Word	MI-score	Freq.	No.	Word	MI-score	Freq.	No.	Word	MI-score	Freq.
вопрос (question)				проблема (problem)				задача (issue)			
1	вышеперечисленный (above-mentioned)	7.86	2	1	возбуждающий (exciting)	6.30	2	1	2003	6.27	2
2	уладить (handle)	7.86	2	2	застарелый (long-standing)	5.71	2	2	однотипный (same)	5.69	2
3	полемика (controversy)	6.86	2	3	демография (demography)	5.30	2	3	стоящий (standing)	5.45	13
4	проблемный (troubled)	5.86	2	4	современность (present)	5.30	2	4	взб (Russian government-owned development bank)	5.27	2
5	затронуть (affect)	5.63	3	5	насущенный (vital)	5.03	5	5	удвоение (doubling)	4.95	2
6	задаваться (be asked)	5.53	2	6	упоминать (mention)	4.97	2	6	выполнимый (workable)	4.81	4
7	подходный (income)	5.53	2	7	корень (root)	4.56	3	7	пьянка (bar)	4.69	2
8	спорный (controversial)	5.53	2	8	интегрироваться (integrate)	4.49	2	8	постановка (setting)	4.69	2
9	свободно (freely)	5.27	2	9	продвинуться (move)	4.30	3	9	реалистичный (realistic)	4.69	2
10	чувствительный (sensitive)	5.12	3	10	устраивать (make)	4.30	2	10	общенациональный (nationwide)	4.59	10
11	закрывать (close)	5.05	2	11	накопиться (accumulate)	4.18	3	11	ставить (put)	4.50	12
12	МИНФИН (Ministry of Finance)	5.05	2	12	решать (decide)	4.17	17	12	длинный (long)	4.46	2
13	общественно (socially)	5.05	2	13	неотложный (urgent)	3.97	2	13	решать (decide)	4.38	20
14	преемственность (continuity)	5.05	2	14	острота (severity)	3.97	2	14	ставиться (be put)	4.27	3
15	спокойный (calm)	4.86	2	15	сталкиваться (face)	3.90	4	15	соревнование (competition)	4.10	2
16	проработать (elaborate)	4.86	5	16	недоверие (mistrust)	3.84	2	16	решить (solve)	4.06	24
17	мораль (moral)	4.69	2	17	откровенно (openly)	3.84	2	17	2020	3.86	3
18	ответить (answer)	4.53	2	18	нарастать (increase)	3.79	3	18	общегосударственный (government-wide)	3.81	2
19	решаться (be resolved)	4.53	5	19	обсуждать (discuss)	3.71	2	19	масштабный (large-scale)	3.72	8
20	возвращаться (return)	4.53	3	20	решить (solve)	3.67	18	20	поставить (put)	3.60	11

・プーチン演説の вопрос (question/ matter)

- (1) 問題の困難さ, 重要性: спорный (controversial), чувствительный (sensitive)
- (2) 解決関係: проблемный (troubled: この単語の意味は, ロシア語では「問題を解決しようとする」という意味である。), ответить (answer: 動詞), решаться (be resolved)
- (3) 問題の発生, 悪化: затронуть (affect), возвращаться (return)

プーチン演説の вопрос (question/ matter) との共起関係にある語彙を観察すると, (2) の項目に分類され得る語彙が最も多く, さらに IM スコアも高く, проблемный (troubled) は 5.86, ответить (answer) は 4.53, решаться (be resolved) は 4.53 であった。

・プーチン演説の проблема (problem)

- (1) 問題の困難さ, 重要性: насущный (vital), неотложный (urgent), острота (severity)
- (2) 解決関係: устраивать (make), решать (decide), обсуждать (discuss), решить (solve)
- (3) 問題の発生, 悪化: упоминать (mention), накопиться (accumulate), сталкиваться (face), недоверие (mistrust), нарастать (increase)

プーチン演説の *проблема* (problem) では、(3) の問題の発生に関する語彙が最も多く観察された。特に、*накопиться* (accumulate), *сталкиваться* (face), *недоверие* (mistrust), *нарастить* (increase) という語彙は、ネガティブな印象を聞き手に与え得る。(1) の項目にある語彙をみると、*насущенный* (vital), *неотложный* (urgent) とあり、プーチンの *проблема* (problem) に対する姿勢が分かる。問題の発生や重要性との共起関係がある一方で、(2) の項目のように、解決を表す語彙との共起関係もある。ロシア語の *решить* (solve) は完了体であり、「解決をする」という意志を聞き手に伝える役割がある。MI スコアは 3.76 であり、出現頻度は 18 回であることから、聞き手にプーチンが問題に対して解決の姿勢にあるという印象を与え得ると考える。

・プーチン演説の *задача* (issue/ task)

(1) 問題の困難さ, 重要性: *планка* (bar)

(2) 解決関係: *выполняемый* (workable), *решать* (decide), *решить* (solve)

(3) 問題の発生, 悪化: *ставиться* (be put), *стоящий* (standing), *постановка* (setting),
ставить (put), *поставить* (put)

プーチン演説の *задача* (issue/ task) では、(3) にあるように問題の発生に関する語彙が多く共起関係にあることが分かる。今後の課題として提示している問題に対して、プーチンは、(2) のように *выполняемый* (workable), *решать* (decide), *решить* (solve) と、解決に関する語彙が共起関係にある。その内、*выполняемый* (workable) は出現頻度が 4 回であるが、MI スコアは 4.81 とありその結びつきが高い。また、*решать* (decide), *решить* (solve) は出現頻度がそれぞれ 20 回、24 回であるため、聞き手にプーチンは *задача* (issue/ task) に対して解決に積極的な姿勢であるという印象を与え得る。

エリツインの年次教書演説での結果と比較した場合、確かに困難さを示す語彙とのコロケーションも観察されるが、プーチンの年次教書演説での「問題」との共起語をみると、問題に対して解決する語彙の種類も多くみられ、問題解決への積極性が伺える。このように自らの政権時代において解決すべき問題について、解決につながる語彙の使用で、聞き手は国家指導者としてプーチンに期待を寄せる可能性がある。

4.3 メドベージェフ演説の「問題」のコロケーション

表5はメドベージェフの年次教書演説における「問題」のコロケーションを示す。メドベージェフのコロケーションで得られた共起語はエリツイン、プーチンの年次教書演説と比較すると極端にその数は限られる。

表 5 メドベージェフ演説における「問題」のコロケーション (MI score ≥ 3)

Medvedev											
No.	Word	MI-score	Freq.	No.	Word	MI-score	Freq.	No.	Word	MI-score	Freq.
вопрос (question)				проблема (problem)				задача (issue)			
1	квартирный (apartment)	6.86	2	1	взяться (take)	5.71	2	1	дискредитировать (discredit)	4.95	2
2	соответственно (accordingly)	4.74	3	2	надолго (for long)	5.71	2	2	ничего (nothing)	4.69	2
3	убеждение (conviction)	4.69	2	3	пренебрежение (neglect)	4.97	2	3	улучшать (enhance)	4.10	2
4	болезненный (painful)	4.53	2	4	всерьез (seriously)	4.71	2	4	оперативный (operational)	3.27	2
5	выживание (survival)	4.40	2	5	соревнование (competition)	4.13	2				
6	здоровый (healthy)	3.69	3	6	восприниматься (be taken)	3.97	2				
7	сад (garden)	3.69	2	7	избавиться (get rid)	3.97	2				
				8	остро (urgently)	3.71	3				

・メドベージェフ演説の вопрос (question/ matter)

- (1) 問題の困難さ, 重要性: болезненный (painful)
- (2) 解決関係: убеждение (conviction), выживание (survival)
- (3) 問題の発生, 悪化: 該当なし

メドベージェフ演説の вопрос (question/ matter) では(3)に該当する共起関係にある語彙は観察されなかった。(1)の問題の困難さを表す項目では, болезненный (painful)とあり, エリツインやプーチンの演説で観察されたような, 困難性を表す語彙ではなく, 現状に対して嘆かわしい状態であるという意味を表す語彙との共起関係が確認された。(2)にあるようにメドベージェフの問題解決の姿勢は, そのような嘆かわしい状態からの救済を表す語彙が見受けられた。特に, убеждение (conviction) は, болезненный (painful)および выживание (survival)と同じ出現頻度であるが, MI スコアは 4.69 と高いことから, メドベージェフの問題解決に対する信念に関する語彙と вопрос (question/ matter) と強い結びつきにあると言える。

・メドベージェフ演説の проблема (problem)

- (1) 問題の困難さ, 重要性: всерьез (seriously), остро (urgently)
- (2) 解決関係: взяться (take), избавиться (get rid)
- (3) 問題の発生, 悪化: восприниматься (be taken)

メドベージェフ演説の проблема (problem) では, 抱える問題の重要性を示す際に всерьез (seriously), остро (urgently) との共起関係が確認された。問題の解決の難しさではなく, 重要性を訴える一方で, (2)の問題解決の姿勢も взяться (take), избавиться (get rid) という語彙で示している。特に, взяться (take) は出現頻度が всерьез (seriously) と同様の2回であるが, MI スコアは 5.71 と高く, 共起関係の結びつきがより強いことが分かる。

・メドベージェフ演説の задача (issue/ task)

- (1) 問題の困難さ, 重要性: 該当なし
- (2) 解決関係: *улучшать* (enhance), *оперативный* (operational)
- (3) 問題の発生, 悪化: *дискредитировать* (discredit)

メドベージェフ演説の задача (issue/ task) では, 課題となる問題の困難さ, 重要性に関する語彙との共起語は観察されなかった。一方で, (3)の問題の発生, 悪化の項目では *дискредитировать* (discredit) という語彙との結びつきが確認され, ロシア国内の状態に対して不名誉な状態であることが訴えられている。その状態を打破する姿勢にあることが, (2)の問題解決の項目の結果から伺える。メドベージェフ演説の задача (issue/ task) との強い共起関係にある語彙は, 同様の出現頻度 2 回 MI スコアを基に, これら 3 語を比較すると, MI スコア 4.95 の *дискредитировать* (discredit) であることが分かる。

(1)から(3)に分類した各項目以外の *вопрос* (question/ matter) との共起語をみると, *квартирный* (apartment), *здоровый* (healthy), *сад* (garden の意味であるが, メドベージェフの文脈では *детский сад*: kindergarten として使用されている), という国民の生活に関わる具体的な語彙が観察された。このことは, 聞き手に, 具体的な問題点を把握している, あるいはどのような方向性で政策を進める計画であるか, という自らの政権のアピールへとつながると考える。

4.4 その他の特徴

「問題」に関する語彙のうち, *проблема* (problem)と共起関係にある語彙に着目すると, 「時間」に関する語彙があった。エリツインでは *одночасье* (overnight), プーチンは *застарелый* (long-standing), そしてメドベージェフでは, *надолго* (for a long time) である。以下は, 実際のロシア大統領年次教書演説での使用を示す。*проблема* (problem)には下線を引き, 時間を表す語彙はイタリックで示す。また, 例文ごとに引用元となる大統領の名前と年代を示す。例えば, (Yeltsin 1999) であれば, エリツインが 1999 年に行なったロシア大統領年次教書演説を指す。

- (1) Конечно, проблема сложна и в *одночасье* не решатся.

“Of course, the problem is complex and cannot be solved *overnight*.”

(Yeltsin 1999)

- (2) Убежден, у нас есть уникальный шанс в ближайшее десятилетие кардинально решить и другую *застарелую* российскую проблему – жилищную.

“I am convinced that we have a unique chance in the next decade to radically solve another *long-stand* Russian problem – the housing problem.”

(Putin 2012)

- (3) Мы взяли за демографическую проблему всерьез и *надолго*, но должны понять, что в ближайшие 15 лет будут сказываться последствия демографического спада 90-х годов.
“We have taken the demographic problem seriously and for a long time, but we must understand that in the next 15 years the consequences of the demographic decline of the 1990s will be felt.”

(Medvedev 2010)

大統領3氏の上記で挙げた「時間」の使用をみると、エリツインは短時間では問題を解決することが困難であることを強調している。プーチンの文脈では、長年ロシアで問題となっていた事柄の終結を示している。メドベージェフは、問題解決にあたって長年取り組んできたというプロセスとして共起語で抽出された「時間」を使用している。

また、*задача* (issue/ task) との共起語では、エリツインとプーチンの結果をみると、具体的な年代が抽出されている。*задача* (issue/ task)には下線を引き、年代はイタリックで示す。

- (4) Добиться стабилизации уровня жизни, создать предпосылки для его повышения – важнейшая задача *1995 года*.
“To achieve a stabilization of the standard of living, creating the prerequisites for its improvement is the most important issue/ task of *1995*.”

(Yeltsin 1995)

- (5) В Послании *2003 года* я ставил задачу обеспечения конвертируемости рубля. [...]. Сегодня предлагаю ускорить отмену оставшихся ограничений и завершить эту работу до 1 июля текущего года.
“In the Message of *2003*, I set the issue/ task of ensuring the convertibility of the ruble. [...]. Today I propose to accelerate the abolition of the remaining restrictions and complete this work before July 1st of the current year.”

(Putin 2006)

- (6) Мы поставили задачу к *2020 году* создать и модернизировать 25 миллионов рабочих мест.
“We set the issue/ task of creating and modernizing 25 million jobs by *2020*.”

(Putin 2012)

(4)から(6)で示されているように、エリツインとプーチンは聴衆に対して、*задача* (issue/ task)を提示するために、具体的な年代を用いている。エリツインは年次教書を述べた同じ年代、つまり、そ

の年における課題提示している。一方で、プーチンの使用をみると、(5)では、過去の問題設定した内容を持ち出し、2006年の年次教書を述べた時期には、その結果をより明確なものとし、解決させるという意味が示されている。また、(6)では、2012年の年次教書演説において2020年まで見据えた計画を述べている。エリツインとプーチンが具体的な問題解決の提示を示す一方で、メドベージェフは、*задача* (issue/ task)との共起語で *улучшать* (enhance) という語彙が抽出された。

(7) Деятельность всех должностных лиц не должна дискредитировать государство.

Их главная задача – *улучшать* условия жизни людей.

“The activities of all officials should not discredit the state. Their main issue/ task is to *enhance* the living conditions of people.”

(Medvedev 2010)

確かに、メドベージェフも *задача* (issue/ task)に対して目標を設定しているが、「生活条件の改善」という点では、その解決、達成の実感は国民によって異なる。そのため、聞き手、特に国民は、メドベージェフの提示する「問題」に対する「改善」とは、何を指すのか分かりにくく、大統領への期待も寄せにくい印象を与えると考える。

国家指導者として、ロシア国民が求める条件である、「国家の父」、「現実的で効果的な管理能力」を提示できている大統領は、今回の「問題」のコロケーションの結果からみると、プーチンが最も理想とされる大統領に近い結果であると結論付ける。プーチンはエリツイン、メドベージェフと比較しても高い支持率を受けてきた。それは、「問題」に対してその重要性、また困難さを示しつつも、その解決に向かう姿勢、また具体的な目標達成期限の提示からも国民は、プーチンの発する言葉からそのリーダー性を受け取っているのではないだろうか。

5. まとめ

本研究では、ロシア大統領年次教書演説における、「問題」に関する語彙, *вопрос* (question/ matter), *проблема* (problem), *задача* (issue/ task)と共起関係にある語彙を考察し、エリツイン、プーチン、メドベージェフの3氏の国家指導者としてのリーダー性について比較した。各大統領の特徴として、エリツインは、問題の困難性、プーチンは問題の解決、メドベージェフは具体的な問題点を示す語彙との共起関係が観察され、各大統領により「問題」の提示から、国家指導者としての聴衆へのアピールが異なることが明らかとなった。問題の困難性を示すことで、国民に国内外の問題で難しい問題を扱っているという指導者としての力量をアピールし、国民との現状の共有を図る、あるいは、あるいは指導者として有能な立場にあると十分にアピールすることは可能であるが、それに伴う結果を残さなければ、国民からの支持は得られない。問題の困難性を示す一方で、問題解決に対していかに表現するかで、国家指導者としての印象、期待は大きく変わると言えよう。共通点としては、いずれの大統領も *задача* (issue/ task) に対しては課題と言われる問題に対して積

極的な姿勢であった。しかし、ポジティブな語彙の使用においてもその語彙の持つ確実性、目標の終着点を示す語彙とのコロケーションによって聞き手に与える印象は大きく異なることが分かった。

謝辞

本研究は、科学研究費 JSPS KAKENHI Grant Number JP 17J06350 の助成を受けて行われた。

引用文献

- Hunston, S. (2002). *Corpora in applied linguistics*. Cambridge University Press.
- Philip, G. S. (2003). Collocation and connotation: A corpus-based investigation of colour words in English and Italian, Ph.D. thesis, The University of Birmingham.
- Imao, Y. (2017). CasualConc (Version 2.0), Computer Software, Osaka, Japan: Osaka University. Available from <https://sites.google.com/site/casualconcj/Home>.
- Иванова, Н. И. (2012). Каким должен быть президент, Интервью in *Время и люди*. (<http://vilvolovo.ru/news/blic-opros-kakim-dolzhen-byt-prezident/>, 最終閲覧日 2018 年 11 月 20 日)
- Почещцов, Г. Г. (2002). PR для профессионалов (<https://kprf.ru/library/classics/manuals/4210.html>, 最終閲覧日 2018 年 11 月 20 日)
- Winnie, C. (2001). *Exploring corpus linguistics language in action*. Routledge.
- ВЦИОМ (2008). Идеальный президент: отец нации или современный менеджер? (<https://wciom.ru/index.php?id=236&uid=2931>, 最終閲覧日 2018 年 11 月 20 日)
- Яшин, В. Н. (2010). Анализ системы архитипических ключевых слов современной российской политической речи, *Известия Вологодского государственного педагогического университета*, 46, 120-124.